



綿状や布状に加工した炭素繊維

## 遠赤外線放つ繊維

大津のベンチャーが開発

遠赤外線を放射する炭を綿状や布状に加工

する技術を、ベンチャー企業の大木工藝（大津市）が開発した。衣類などへの応用に向け、京都府立医科大（京都市上京区）と体内温度の変化を調べる研究を始めた。

約千度の高温で焼いた炭を微細な粒子に砕く。それを再び高温で焼くことで粒子が小さな接点で結合し、綿状や布状への加工が可能になったという。

全方位に遠赤外線を拡散放射する働きがあるといい、衣類などの生地に挟み込んで使えば、従来の炭素を練り込んだ繊維に比べて高い放射量が期待できる

としている。

研究では繊維を入れた下着や腹帯を着た時の体内温度の上昇率などを分析する。効果が裏付けられれば、保温や冷え性予防などの用途で下着や寝具、スポーツ用品の需要を見込む。価格は形状によって1平方センチ当たり千〜8千円の見通し。

（柿木拓洋）